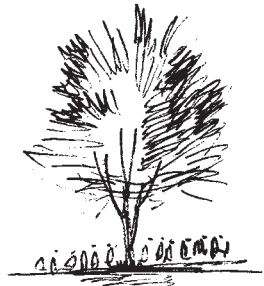
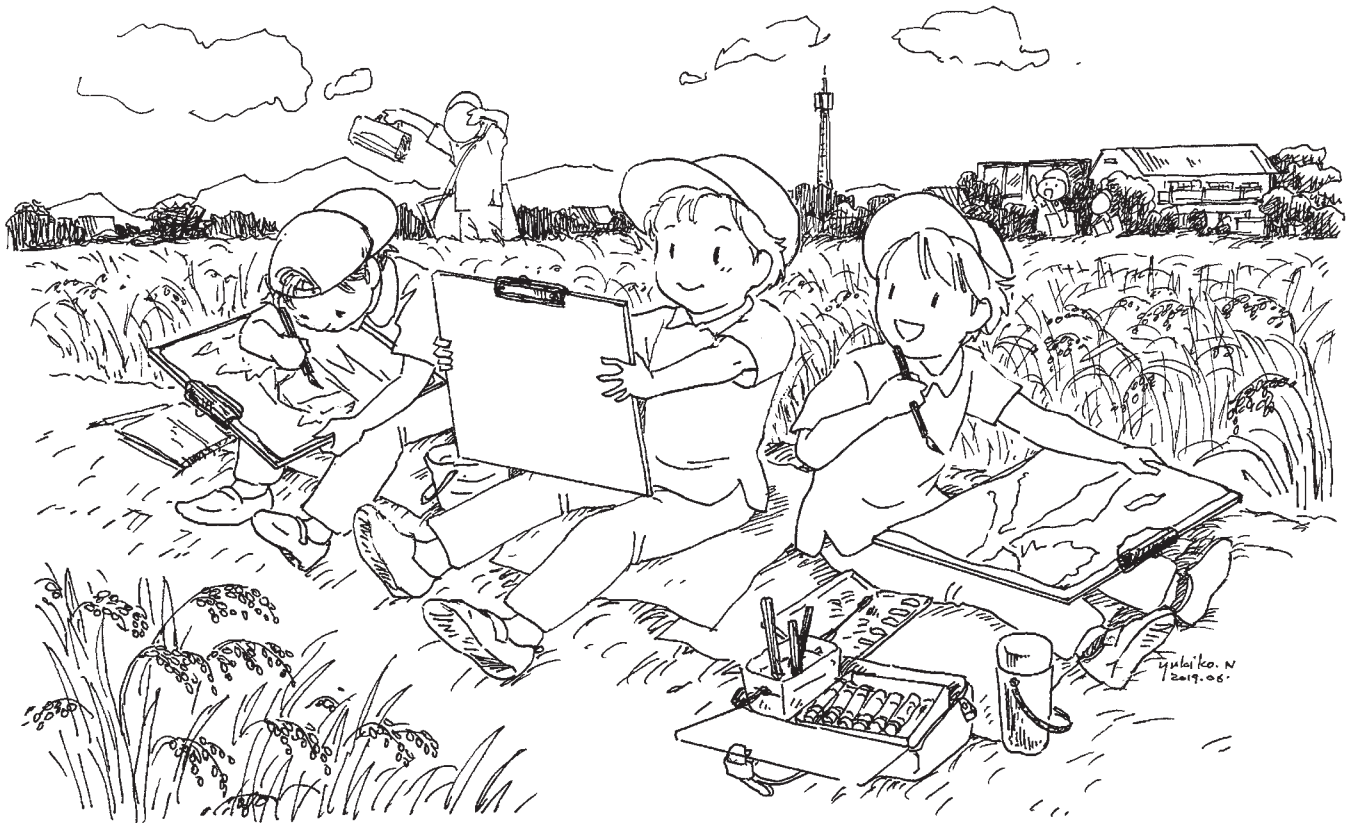


光の子



No.191 2019.7.20

●年間聖句 人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。
(マタイによる福音書7章12節より)



「秋めく」

表紙絵・中島由起子

「遠泳」

花会津山あそばせて城残る

激水を滝にとどめて風起こす

近くより遠くのみどり眺めけり

河鹿沢少年の日を想ひ出す

万緑の中エンピツの美術館

朴の花山ひっそりと成長す

墓地抜けて遠泳にゆく青い海

落合 水尾
「浮野」主宰

菅原君、へき苦勞様でした

老健施設みゆきの丘 施設長 仙道 富士郎

この5月で、菅原君が「光の子どもの家」の理事長を退任した。本当にご苦勞様と申し上げたい。

正確な年月を今思い出せないが、全国ニュースにも報じられたような猛烈な地元の反対運動の中で、彼が光の子どもの家を設立したのが、ついこの前だったような気がする。ただ、この間の年月は、彼が命を賭した生涯の仕事を成就した時間に符合する。別に菅原君の生涯が終わったと言いたいわけではない。そうではなくて、彼の歩んで来た道は、「生涯」と名を付すにふさわしい一つの完成した生涯だったということである。

年数回という少ない頻度ではあったが、この間、菅原君と、そして彼が主宰する光の子どもの家と付き合ってきた。最後はいつも泥酔してしまふほど二人は酒を飲んでいったという主導線の他にも、

色々な子どもが思い浮かび上がってくる。

正直言つて、光の子どもの家では、なにかいつも問題が起こつていたように思う。ただ、いま思い返してみると、それは、いわゆる「普通」の施設では、問題にもされずに看過されてしまうような類の事で、ここでは、子どもたちの事を大切にしようとするがゆえに起こる問題だったように思える。

そして、理事会のほかの内部の会に出席したことは無いので、推測になつてしまふのだが、究極的には、菅原君の舌鋒鋭い論理の展開によつて、それらの問題は解決されてきたのではないか（あるいは、菅原君以外の若者たちにとつてみれば、ねじ伏せられたいといった感もあつたかもしれない）。それほどに、光の子どもの家にとつて彼の存在は大きく、絶対的なものだったに違いない。大学に居たときのことを思い起こすとあまり大きなことを言えた柄ではないが、菅原君は光の子どもの家のまさに「ワンマン」だつたと思う。

ワンマンの下で働く人たちは、仕事にあまり不安は感じないが、悔しい思いはいっぱい持っているのではないだろうか。多分、光の子どもの家で働いていた元若者たちもそうだったに違いない。ただ、彼も、元若者たちも、子どもたちに寄せる想いは人一倍強く、それゆえに、何があつても、子どもたちの幸せに向かつて皆が収斂していったのだろう。そうでなければ、施設を出た後も、事あるごとに顔を出す子どもがたくさんいるような、心の底ではしつかりとつながつていける子どもたちと養育者たちの関係は築きだされてこなかつたであらう。

80歳も近くになると、光の子どもの家の次の代の事が彼と私の話題によく上つた。彼が理事長としての力をまだ十分に備えていることは間違いないが、代替りが遅ければ遅れるほど、新しい体制を作る

ことが困難だろうと思ひ、そう話し、彼も同意した。少し淋しそうではあつた。

そんなことで話が進んでいく頃の、いつもの飲み会の時の話である。一人の古株の元若者の職員が一人が、「こんなことを言つたら菅原君が怒りだすのではないか」と私が心配したほどはつきりした口調で言つた。「菅原先生に相談しなければならぬことが起きたときには、お家に迎えに参りますから——」。自分たちの力で、しっかりと光の子どもの家を発展させていくという宣言であつた。この言葉を聞いたとき、菅原君が退いた後の事を私が心配することなど何もないと思つた。スタイルは違つたものになるやもしれないが、子どもたちの立場に立つて、子どもを大切にして養育にあたるという光の子どもの家の伝統は、守り継がれ、さらに進化していくに違いない。

私も、菅原君の理事長退任に合わせて、理事を辞した。年に数回訪れる光の子どもの家ではあつたが、私なりに感慨はあつて、いまま少し淋しい。

菅原君は、私の何十倍、何百
倍淋しかろう。その寂しさに
耐えて、じつと見守っていく
のが、君に与えられたこれか

らの道であると言いたい。
体の具合が良くなったら、
山形の温泉で、ゆつくり飲も
う。

軍歌

彫刻家 中島 睦雄

久しぶりに軍歌を聴いた。

CDで流してみたのだったが、特別に聴きたいということもなく、ただ、たくさんのCDの中からなんとなく引き出したのであった。

そんなことで、CDをかけてみると、軍歌。大変懐かしい。

勿論私は戦争に行ったわけではないが、子どもの頃、何とはなしに覚えた歌だったのである。そこで、CDに合わせて歌ってみると、案外覚えていたのである。

私が、当時の国民学校の3年生の時に、大東亜戦争が終った。あの戦争を、戦後は太平洋戦争と言っているようだが、私の子どもの頃は大東亜戦争の最中であつた。

ここまででは暗記して歌える。しかし、2番は歌えない。そして、不思議な事に

3番は歌えるのである。

過ぎし幾多の空中戦
銃弾うなるその中で
必ず勝つの信念と
死なばともにと団結の
心で握る操縦桿

(作詞・田中林平)

子どもの頃とは恐ろしいものである。誰かに正式に教わったわけではなく、おそらくラジオから時々流れていたのではないか。それと、身近に居た先輩が歌っているのを聞いて、覚えてしまったのだらうか。

そんなことで、子どもは覚えてしまうのだ。

露営の歌

勝つてくるぞと勇ましく
誓つて故郷を出たからは
手柄立てずに

死なりようか
進軍ラッパ聞きたびに
臉に浮かぶ母の顔※

(作詞・藪内喜一郎)

やっぱり、母の顔が浮かぶのである。

「戦友」という歌がある。

ここは御国を何百里
離れて遠き満州の
赤い夕日に照らされて
友は野末の石の下

(作詞・真下飛泉)

これは、戦友として敵陣に突進した時、隣に居た戦友が敵弾に当たり、倒れてしまったのを、厳しい軍律の中、友を見捨てられず手当をするのだが「御国のためだから、俺には構わずに、突進してくれ」と目に涙を浮かべながら、友が言うのであった。

その友も、もう野末の石の下だ、という。CDに合わせて歌っていた私も、いつの間にか涙が滲んできてしまった。

「九段の母」という歌がある。
戦死して靖国神社に祀られた我が子を想い、田舎から1日ばかりで会いに来た歌である。

上野駅から 九段まで
かってしらない

杖を頼りに 一日がかり
じれつたさ

せがれ来たぞや

会いに来た

空をつくよな 大鳥居

こんな立派な

おやしるに

神とまつられ

もつたいなさよ

母は泣けます

うれしさに

(作詞…石丸秋二)

何と無謀な、桁違いに大きな相手と戦争をしたのである。

戦争の、本当の意味を知らない、体験もない私が、鼻歌で軍歌を歌っていいのだろうか。それは、いけないと、言われよう。

※露宮の歌の歌詞中、「母の顔」は「旗の波」とするのが正確ですが、口伝えに「母の顔」と覚えた方も多いようです。(編集部注)

プリズム

原田家

岩瀬 志穂

今年も、子どもたちが待ちに待った夏休みが、やってきます!! 大人たちは大変ですが……。

毎日なので、3食食事を作らないといけないですし、安全管理をしつつ、子どもたちが楽しめるように、プログラムをたてたり……。あつという間です……。

そして、夏休みといえば大量の宿題。ワーク、作文、ポスター……。今から、ちよつと、憂鬱です……。

そして、夏休み頃、毎年、アメリカのカルフォルニア大から学生が2名研修にきます。

187号のプリズムで紹介したステッフは、研修後、日本の某有名大学に留学しました。

1年の留学なのでもうアメリカに帰ることに……。この1年の間に何回も遊びに来てくれ、家族もわざわざアメリカから来てくれたり、子どもたちにも何かしてあげたいということ、遊ぶ物をプレゼントしてくれたり……。いろんな意味で国境を超えるなど思っ

たし、そういう気持ちたちが本当にありがたいと思つた1年間でした……。

佐藤家①

峯寄 舞

5月、佐藤家に新しい仲間が増えました。下がり眉で困っているような顔が印象的な、2歳の英樹です。

これまででは一時保護所で生活していましたが、光の子どもの家に行きました。庭や食堂へ遊びに行くと、他の職員や年上の子ども達から「ひで

きく! ひでき、可愛い!」と人気者。みんなに可愛いと言われ、英樹はニンマリ。べろを出して喜びます。可愛がられてるのに、突然パンチ! とにんまりしながらアンパンチで攻撃したりする一面も。

基本的に家にいる時より外が好きで英樹。一人で靴を履いて脱走しようとする程です。それほど外が好きで英樹なので、私はお散歩好きかなと思つてお散歩に連れ出しました。歩くのは好きではないのか、「あつこ〜! あつこ!!」



ホワカどく



と少し怒りながら抱っこをせがんできます。

どうやら英樹は「外の世界」が好きみたいです。光の子どもの家によつてきた頃から、オムツにおしっこやうんちが出ると、「ちー！」と自分のおしりを触って「オムツ替えてー！」と私に伝えることができたり、ご飯を食べべ終わつたら一目散に歯磨きをしに行くなど、英樹凄い！と感動してばかりでした。そんな英樹も光の子どもの家に来てもうすぐ1ヶ月が経ちます。

なんと、トイレでうんちが出るようになってきました！

同じ佐藤家の田口さんがサポートをしてくださり、トイレを嫌がることなく、2回程トイレでうんちができていま

す。

日々成長が感じられる英樹。私も負けずに成長していきたいと思えます!!

佐藤家② 田口 貴子

梅雨の湿気や暑さが増し、過ごしていく今日この頃。皆様いかがお過ごしでしょうか。

先日新しく光の子どもの家に仲間入りした達也と散歩に出かけようとしたときの事。いつものようにタオルや帽子を持ったか確認していると、ふと手にビニール袋を持っていました。「何が入っているの？」と聞くと「え？これ？田んぼのチエックしないからだ、俺が作ったの！棒との

ぞくやつ。」と達也。中には折り紙で作った棒と筒が入っていました。達也は散歩をしながら、なぜか人の家の田んぼを勝手に格付けするのが日課と化していました。その判断基準は独特なようで……。

達也「今日はここは丸です、まあ、丸かな！」

私「何で？」

達也「うーん……まあ、ここら辺がねーじゃ、次見まーす、あ！オタマジヤクシ！」

というやり取りと言えないような会話が続いていきます。何とも言えず楽しい時間です。

道の途中に小さな神社があり、毎回そこでお参りをするのも大切な日課の一つでした。

お参りのたびに「達也が健康に過ごせますように、100個（やたらと達也は100という数字を言うので）良いことがありますように」お願いしておいたよ。欲張りって言わ

れるかな？」「ううん、大丈夫！今日もいいことあるね、ちゃんとお参りしたから！俺も貴子さんがいい夢見れますようにって、神様お願いしたよ。俺たち偉いから良い事あるね！」というやりとりをします。

達也は普段、一人で喋り続け、相手の存在を感じ取れているか不安になる場面があります。ですが時折見せる優しさや、独特な感性がとても魅力的な子どもです。これからがとても楽しみです。

仙道家 奥寺 美鈴

先日、岩崎の連休がありました。そんな非日常時の子どもたちの反応は様々です。寂しい気持ちや我慢して頑張る子もいれば、口うるさく言われなれないと思いいんころんの子も正直います(笑)

そんな中で唯一の女の子である鮎子はすごく私を助けてくれます。高校3年生であり就職を希望している鮎子は今年度で卒園となります。岩崎から入所の頃の彼女の話を聞くと同じ子どもとは思えない

ほど成長しています。

元々お手伝いや家事が苦手な鮎子ですが岩崎の連休中はいつも頑張ってくれます。男の子同士の喧嘩の仲裁、夕食後の後片付け等、普段は「手伝って」の声かけに文句を言いながらやるのですが、この時は自ら何も言わずにやってくれていました。

夜になると小さい子3人の寝かしつけをしてくれました。暫くしてもなかなか戻ってこなかったりで、自室で寝ているのかと鮎子の部屋を見に行っても居ません。そおつと小さい子たちの部屋をのドアを開けて見ると、子どもたちと鮎子が並んで寝ていました。それを見てあまりの可愛らしさに私の疲れも吹き飛び、また私に事を氣遣ってくれていることに感動しました。

岩崎の休みの日は子どもだけでなく私自身も成長しますが、子どもと一緒に私も岩崎の帰りを心待ちにしていた連休でした(笑)

倉澤家

倉澤 智子

子どもたちが各々の新しい生活を始めて3ヶ月になろうとしています。高校生になった萌愛は、通信制に通っているため、スクーリングは週2回なのですが、本人の想像を超えた楽しい高校生活に出会えたようで、自由登校の日にも休まず学校に行っています。他人とのコミュニケーションが苦手な友人が、入学早々気の合う友人ができたようです。友人とのやりとりや他の同級生の話、時には先輩の話も聞くことができます。そのせいか学校生活への姿勢がとても積極的になったと感じています。

秋に行われる文化祭の実行委員になり、今から先輩たちと相談しながら計画を立てています。友人たちとバンドを組んで、発表することも考えているようで、今から「文化祭絶対来てよ！」と言われていきます。バンド作りと関連しているのか、友人と軽音楽部を立ち上げた、との話もありました。

中学生の頃は、どちらかと言えばうつむきかげんだった萌愛が、今は顔を上げ、様々な方向に顔を向け、楽しんでる姿を見てニンマリしています。このまま充実した楽しい高校生活を送り、その先の生活につながっていけばと思っています。

今から文化祭が楽しみです。

牧野家

佐藤 義岳

お出かけ。大雨なのに日向が傘をささない。

「佐藤さんに入れてもらうから、いいの」

「自分のをさしなさい」

「じゃあ、美樹に入れてもらう」

「うちに自分の傘はないの？」

「学校に置き傘あるから、いいでしょ」

「帰りはいつも車でお迎えだから、置き傘いらないうでしょ。学校行くとき雨だったら困るよ」

「いいのー」

そんな日向だが、細かいことにとってもよく気がつく。誰かが髪を切ったとか、近所の犬の調子とか、物の配置が変

わったとか。

美樹と日向を学校まで迎えに行き、車に乗せた。

「なんか落ちてるよ」

「日向ちゃん、勝手に開けちゃダメだよ」

「確認してるだけだよ」

「渡して」

「ヤダ」

「ダメだってば」

「これ倉ちゃんのだ」

「なんでわかるの？」

「倉澤って書いてある」

「あ、これ倉澤さんが探してたやつ」

「イスの下に落ちてたよ」

「日向ありがとう、お手柄だよ」

立て替え未精算の領収書、約1万8千円分。佐藤が預かって届けると、倉澤は感激。「でも倉澤なんて書いたかなー?」

「日向が書いてあったって言ってましたよ」

「……? ああ、食事代って書いてあるよ」

「まあ、似てます、かね?」

日向には、倉澤からのお礼として、ちよつと高級なおいしいお菓子が進呈されました。

現場から…アフターケア③

丘実・理奈・萌季

岩崎 まり子

湿気をはらんだ風が庭の梅の実を揺らしています。皆様、お元気ですか。

今の読者の方の中でどのくらいの方が彼女たちの「その後」に思いを馳せて下さっているのか、覚えていて下さっているのかわからないまま書いてしまったので少しわかりにくいかも知れません。すみません。彼女たちを覚えていて下さっている方々には「おかげり」という感じで読んで下されば、と思います。皆様にもいろいろご心配おかけしてきた丘実ですが、今も地方に住んでいます。親御さんとは別々の住まいではありませんが、近所に住んでいるようです。年に何回か連絡があったり来たりしてくれています。

つっ込みどころ満載ですが、私もあまり踏み込まず、ほどの距離感でつき合っています。あまり子さん、性格悪いよね。ふふふ。」と、前回来たときに言われたので「お互いにね。」と返しましたが、私としては、彼女とそんなやりとりが笑いながらできる日が来るとは思えなかったもので、ちょっと嬉しかったです。電話で親やお金のグチを聞き、つき合っている男性のとうしようもなさ聞き、時間と距離ができた彼女とのつき合いを楽しんでいます。理奈は今、大学4年生で、自身でいろいろ考えながら就活もし、内定も頂きました。高校生ときは文章表現が苦手で、宿題の手伝いをさせられたことも一度や二度ではなかったのに、就活でのレポ

トなどは立派に仕上げたということだけでも感無量の私です。

不慣れた都会で宗教の勧誘に合い、1時間粘られても折れずに辞退できたという話など聞くと、いろいろなことが心配で学校や駅からの帰り道日々が遙かあなたにかすんでいくようです。

萌季とは年に1、2回くらいしか会えませんが、話を聞く度にフットワーク軽くチャレンジし続け、キャリアアップしているようです。何よりも自分が主役の人生を楽しみながら歩んでいる様子で嬉しい限りです。

本人の意志が第一ですし、経済的なこともあり一概には言えませんが、理奈にしても萌季にしても高校生のときにはまだ弱々しく、彼女たちにふりかかる不幸がこれ以上深刻なものにならないように、ということがオーバーでなく私の願いでした。そのことの為いろいろな腐心し、動いていたつもりですが、大学や留学を経験した彼女たちは、いつの間にか「自分で何とかす

る」「自分で何とか出来る」という術と自信とを身につけていました。本人の努力も勿論あったでしょう。でも、20才前後を学生という身分で過ごすことの貴重さを思い、それが許されたことには心から感謝しています。

出会った子どもたちには皆、幸せであって欲しい。それは、卒園生であろうと「措置」児童であろうと変わりません。私の中では〇〇ちゃんという、一時ではあるけれども一緒に生活をした唯一無二の存在です。

人は誰しも、たとえほんの数日だったとしても共に生活した人を忘れることなど出来ないのではないのでしょうか。だから、アフターケアに至らないような関わりであったとしても、日常のふとした瞬間に「あの子はどうしているかな」と思い出したりしてしまうのです。幸せであって欲しいと願いながら…。

体調を崩しやすい季節です。皆様、どうぞご自愛下さいますように。

感謝報告

6月1日(土)に開催した「小さくても大バザー」はおかげさまで大盛況でした。

今回の収益金419,475円は、改修費用に充てさせていただきます。

ご協力くださった方々に感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

光の子どもの家バザー委員会



◀ 後援会・しずくの会の
いがまんじゅう



▼ うどん打ち



◀ 野菜売り場

写真は、しずくの会会長・石井様よりいただきました。

子どもたちのかがやきとともに

— 光の子どもの家をお支えください —

光の子どもの家の周囲は緑一面、稲がまっすぐに、力強く伸びています。たくさん手をかけられ、初夏の日差しをあびて、今年も収穫の季節にはおいしいお米になることでしょう。

皆さま、いかがお過ごしでしょうか。足りないところばかりの私たちに、皆さまから絶え間なく篤い思いをいただき、本当にありがとうございます。

私たち職員と子どもたちのひとりひとりに、この地でともに生き・助け合い・高め合おうとする思いを育んでいただいていることを、こころより感謝申し上げます。おかげさまで、昨年度卒園した子どもたちは、無事社会人として歩んでおります。

卒園によって生じた定員の空きに対し、連日入所依頼が続いています。この家は子どもたちのために建てられたもので、必要な子どもたちにはいつでもどうぞ、という気持ちはあるのですが、物理的・力量的になかなか依頼に追いつくことができません。

先日、卒園生がかわいい赤ちゃんを連れてやってきました。「この子に対しては全然イライラしない。」と笑いつつ、「夜、大きな声で泣かれた時には虐待通報されるかと思った。」と言っていました。そんな意識、言葉が日常生活でクローズアップされる社会状況です。

「泣くのは当たり前」な赤ちゃんでさえそうですから、私たちのもとでも起こる大きな子のパニック状態はなおさら、ご近所から心配されそうです。子どもたちの抱えている課題の重さは増すばかりであり、人間同士が共に暮らす中ではいろいろありすぎるのが正直なところです。

それでも何とか子どもたちの役に立ちたい、子どもたちを可能なかぎり受けとめていこうと、試行錯誤の日々を35年重ねてまいりました。そんな光の子どもの家の思いは、今でも何一つ変わりません。

子どもが幼児ばかりだったころには広すぎるようにさえ感じた生活スペースが、縦にも横にも大きく育った子どもたちで手狭になってしまいました。子どもたちの生活空間、環境を整えていくために、建物の修理・改修の必要に迫られております。節約に努めるだけでは足りず、皆さまのご理解とお支えなしには実現できないのが現状です。

願いを重ねてばかりで心苦しいですが、このような光の子どもの家の願いと働きに、ご理解とご協力、そして何よりお祈りくださいますようお願い申し上げます。

皆さまのご健康が守られますように。皆さまに豊かな祝福がありますように、心よりお祈り申しあげます。

2019年 夏

社会福祉法人 光の子どもの家 理事長 大高晋一郎
光の子どもの家を支える会 代表 永野 三恵

郵便振替 00130-1-128022

他銀行からのお振込み

銀行名	ゆうちょ銀行	預金種目	当座
金融機関コード	9900	店名	〇一九店(ゼロイチキュー店)
店番	019	口座番号	0128022

日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 =

2019年5月～6月

【2019年6月末現在】

幼児6名 小学生11名 中学生7名 高校生8名
他2名 計34名
一時保護1名

【5月】

- ☆4日 子ども祭り。友人を招き園庭で子どもたちの出し物、昼食にバーベキュー。宝道様、ミュージックボックス様による音楽体験も。
- ☆7日 光の子どもの家後援会によるうどん玉作り。感謝
- ☆8日 赤十字奉仕団による除草作業。光の子どもの家後援会によるうどん会。感謝。
- ☆10日 若月健悟牧師（守谷教会）による職員礼拝。感謝
- ☆17日 木田浩靖牧師（東埼玉バプテスト教会）による夕礼拝。感謝
- ☆18日 定例評議員会、第121回理事会。菅原哲男理事長、仙道富士郎理事が退任。大高晋一郎理事長、穴水祐介理事、高橋和男監事が就任。5月生まれの誕生会。
- ☆31日 光の子どもの家後援会によるバザー用うどん打ち。感謝
SUGIZO様の招待でLUNA SEAのライブへ。感謝
通報避難訓練。

【6月】

- ☆1日 小さくても大バザー。沢山の協力者、卒園生に感謝。
- ☆8日 菅原前理事長慰労会。沢山の卒園生が帰って来て思い出を語る。
- ☆10日 原道小学校との連絡会。
- ☆14日 若月健悟牧師（守谷教会）による職員礼拝。感謝

- ☆17日 6月生まれの誕生会。
- ☆21日 木田浩靖牧師（東埼玉バプテスト教会）による夕礼拝。感謝
- ☆24日 カリフォルニア大学デービス校より2名の研修生。8月末まで。
- ☆28日 足立泰代氏（性教育ファシリテーター）による施設内職員研修。感謝
通報避難訓練

〈寄贈者各位(敬称略)〉

しずくの会 石井喜久子 高久容子 菊地友枝
水上亜矢 田部井 マルハン古河店 小沢
真中歯科医院 ガレリアヴェール親睦会
木田智恵子 (株)石原商事大根事業所
柳沢健次郎 相崎洋子 内藤芳江 松本明子
根岸亜麗朱 斉藤千恵子 斉藤直子 金子光代
井澤友和 豊国道江 松本静江 宮崎晴子
新井摂子 大塚裕章 株式会社チュチュアンナ
マルキチ物産 長田美紗子 大野泰子
斉藤久美子 嶺尚 嶺澄子
医療法人聖粒会慈恵病院 蓮田健 中村
下川真由美 大淵ヤス子 古川景子 小池みどり
渋谷みさ子 茅ヶ崎同盟教会 小山田貴子
(株)東美 渡辺敏夫 高橋会計事務所 阿久津農園
富田農園 櫻井秀夫 福楽
SUGIZO (LUNA SEA) 高橋会計事務所
木田浩靖 自衛隊広報 他多数の皆様

〈ボランティア各位(敬称略)〉

マルハン古河店 岡本有代 向井進 山田智
山田裕子 常松洋介 久保田修

☆今回は、バザー物品のご協力で大変お世話になりました。
(黒川)

////// ———— 反 射 光 ———— ////

6月なかば、子どもたちが通う2つの小学校から夏休みのプールと「親子除草」中止のお知らせが。中学校は教室にエアコンを設置する工事で2日間休校に▼昨年はこちらの園庭でも気温が40℃に届くことがありました。子どもも職員も暑さに弊れず、楽しく夏を乗り切りたいと思います▼開設当初にいただいた黄色のプールは、今でも幼児さんと小学生の水遊びで大活躍。ただ、高学年はさすがに窮屈そう▼「自転車プールまで出かけておいで」と言えればよいのですが、子どもだけ行かせられる距離にプールはありません。大人と一緒に、となれば、プールへ行かずに残っている子と過ごせる人が減ってしまう▼「プール」が「博物館」「科学館」「公園」などにも変わっても同じこと、園庭で子どもと一緒に遊んでくれる人がいればと、いつも悩みます。夏のひとときを、子どもたちと一緒に過ごしてください。求めています。本誌表紙記載の電話番号か、メールアドレスまで、ご連絡いただくと幸いです。(義)